きまりを見直す観点（目的・手段・公正・効率）

あるきまりがよいきまりかどうかを、どんな観点で確かめればよいか

きまり（架空の中学校）

自転車通学は、家から学校まで2km以上の生徒だけに許可する

目的：通学の安全と、限られた駐輪場を必要な人が使えるようにすること

1 目的は適切か

確かめる問い

何のためのきまりか。

多くの人が納得できる目的か。

この例での見方（一例）

○ 安全と、駐輪場を必要な人が使えるようにする目的は、多くの人が納得できる。

2 目的に合った手段か

確かめる問い

目的を実現するやり方として合っているか。

やり方が行き過ぎていないか。

この例での見方（一例）

△ 距離だけで決めると、2km未満でも坂道や車の多い道を通る人の安全が考えられない。

3 公正か

確かめる問い

手続き：生徒や保護者の意見を聞いて決めたか。

機会：事情のある人が申し出られるか。

結果：一部の人だけが不利になっていないか。

この例での見方（一例）

△ けがや家の事情がある人が申し出る方法がない。

4 効率的か

確かめる問い

時間・お金・場所などにむだがないか。

限られた駐輪場を、むだなく使えるか。

この例での見方（一例）

○ 駐輪場の数に合わせて、許可する人数を決めやすい。

観点ごとの見方をもとに話し合い、きまりを見直す

→

見直し案の一例

2km以上の生徒に加え、通学路に危ない所がある地区の生徒や、けがなど事情のある生徒も、申し出で許可する。毎年、生徒会と先生で見直す。

○・△は見方の一例。立場によって見方が変わることもあり、見直し方の答えは1つではない。

※ 模式図。学校ときまりは架空の例。特定のきまりや見直し方を正解として示すものではない。